

平成 23 年 6 月 11 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

中斎塾 東京フォーラム

平成 23 年 第 5 回講話

「有難う」と言われる生活

最初にいつもお聞きすることを致しましょう。

前回のフォーラムから今日までの間、ずっと嘘をつかなかった方？

私は毎晩、嘘をつかなかったかどうか確認して寝ますので、聞かれた時にずっと答えられます。皆さんも夜寝る時に、今日は嘘をつかなかったかどうか確認されるとよいと思います。

ここ 1 ヶ月間くらい、良い日が続いたと思う方？

これは心持ちの問題です。些細な事でも棘が刺さったようになると嬉しくない日になりますが、嫌なものは丸めてふっと飛ばすようにすると、大分気持ちが穏やかになります。

有難うと言い、有難うと言われた方？

人さまからよく「有難う」と言われる人は、なかなかいません。自分では人さまに親切にしているつもりでも、なかなか「有難う」と返ってくることは少ないと感じますので、出来る限り「有難う」と言われるような日常生活を送られるとよいと思います。具体的にどういうことをするかは、ご自分でお考え下さい。結構そういう種はあります。

必要な時に必要なものを・・・

先週は仙台に行ってきました。経営しております会社の営業所があるので、社員との懇談会をして参りました。来週は福島・郡山・白河と回る予定です。放射能の計測器を持って行って測って参りました。だいたい新聞に載っているような数値でしたが、測る場所・高さによって、かなり違いがありました。地面に近くなると数値が高くなります。

今回の地震で被災した中に、会社の社員が 400 名くらいおります。お陰様で一人も亡くなりませんでしたので、その点は非常に良かったと思っています。

営業所の社員と話をする中で、つくづく感じたことがあります。JR に永く勤めて退職した後、シムックスに来られた方は、「JR に勤めていた時も自然災害に襲われて色々大変

な目に遭ったけれども、会社から食べものや飲み物を支給されたのは初めてだ」と言っていました。「スーパーやコンビニに食べ物が無くなって困っている時に、会社から食べ物・飲み物を支給されたので、父親の株が上がった」と言った方もいました。「会社を誇りに思う」と言ってくれた人が何人もおりましたので、嬉しかったですね。やはりスピード感が重要で、欲しい時に必要な物が届くのは本当に有難いと感じるのだなと思いました。

翻って、今の国のしていることは何なのだろうと思います。日本赤十字社の義援金にしても、信用ならないという気持ちが今、世間に広がっています。お金を集めて渡さないのですから。やはり官僚機構で、<必要な時に必要なものを必要なだけ渡す>という考え方が非常に少ないと思います。

私は被災地を1週間かけて瓦礫の山の中をずっと回ってきましたし、それぞれの市役所や役場の対策本部も行って来ましたが、対応が非常に良い所と、まるでなっていない所とが極端でした。新聞の記事では、自衛隊の人が自治体の対策本部に行くと、副市長が受付に陣取って采配をふるっている所、専門の係がいる所、いつもの受付がいる所では、対応の仕方がまるで違ったとありました。それは私も実感しました。日常と非日常の業務では要求されるものがまるで違うのだから、バトンタッチしなければならない時はバトンタッチすべきだろうと思います。東電の社長も坦々と社長業務をこなして大過なく過ぎてきたのだと思いますが、今回の異常事態が発生した時に、今までと同じようなパターンでやろうとしたのが裏目に出て、あれだけの恥をさらすことになったのだと感じます。

他にも営業所の事務員さんで、「今、身体でちょっとでも感じるような地震があると腰が抜けてしまう」という人がいました。その方は陸橋の上で地震にあって、立っていられなくて腰が抜けたそうです。家が心配なので会社に泊まらずに帰ったそうですが、もちろん仙台駅は電車も止まって、タクシーも1台もない。津波が引いた後の真っ暗な闇の中を、手探りで4、5時間かけて自宅に帰ったそうです。「暗闇を歩くのはこない怖いことかと思った」と言っていました。それがそのままトラウマで残っているのだそうです。今は懐中電灯とラジオ、食べ物・飲み物を常に持っているそうで、完全にその方の生活習慣は変わったとのことでした。

視点を変えて見ると、今回の震災で、シムックスはまず社員の安否、次いで支援物資の輸送をしました。仕事をくださいという動きは、その後になりました。震災3日後に官庁に営業に行った時には、すでに仕事がなかった。驚いたことに被災している地元の会社も営業をかけていたというのです。危機が発生した時にも儲けようとする、まるで違う動きをしている人がこんなにもいるのかと思いました。

現地に行ってみると、色々なこぼれ話があります。営業所の社員が仙台で求人をかけようとハローワークに行ったところ、ハローワークには人が溢れているのですが、皆、失業保険を貰うための手続きだそうで、なかなか働く意欲のある人が少ないということでした。失業保険が終わると次は生活保護ということで、すでに申請の仕方が出回っているそうです。仕方がないので、避難所を回って働きたい人を見つけていると言っていました。

ところが帰ってみると、群馬の本社ですでに被災者を採用していました。勿論、真剣に勤めようという人も沢山いると思いますが、勤めなくても食べられるような状況が何ヶ月も続くと、そういう仕組みの中にどっぷり浸かってしまうので、生活保護を貰いたいと思うのは無理からぬことかと思いました。結局これも国のリーダーシップの欠如というところに繋がると思います。

今日の論語

では、論語の解説を致します。

今日の論語は、述而第七 33～37です。

【三十三】 しいわ、せいじんごとすなわわれあにあえ 子曰く、聖と仁との若きは、則ち吾 豈 敢てせんや。抑も之を為して厭ひとおしうすなわしかい せず、人を誨えて倦まざるは、則ち爾云うと謂うべきのみと。公西華 こうせいかにわまさただてい 曰く、正に 唯 弟子 しまなあた 学ぶこと能わざるなりと。

孔子が言うには、聖人と仁人というものには私はとても及びもつかない。しかしながら学んで弛まず努力をし、人様を教えて飽きない。そういうことであれば、私は出来るであろう。

それを聞いて弟子の公西華が、「それこそ私たち弟子には真似の出来ないことです」と言った。

倦まず弛まず、ずっと学び続けるということはなかなか難しい。人にものを教えて休まないということも難しい。孔先生はこの点で我々とは違う、素晴らしいと公西華が言っています。

聖人とは、生まれながらにして身に付けている道徳が最高のレベルに達しているような人です。仁人は、人さまに対する思いやりですから、自分自身でそうありたいと願って努力を重ねて、その境地に達しようとしている人たちです。

緑村吟詠会の鉄砲洲神社の詩吟の会で論語の解説をした時に、天皇陛下・皇后陛下こそ聖

人ではないかという意見が出ました。今回の震災にあたって、天皇陛下はご自分の親である昭和天皇の生き方をご覧になりながら、こういうふうにしなければならないとお考えになって行動しておられると思います。東電の計画停電が始まった際、それにあわせてご自分も電気を消されておられました。これは、終戦直後に昭和天皇が満足な食べ物もない寝る所もない中で巡幸された、その後ろ姿をご覧になってご自分も努めてそうされているでしょう。皇后陛下も同じだろうと思います。ですから天皇陛下・皇后陛下は生まれながらにそういうDNAをお持ちなのかもしれませんが、一所懸命努めて・努めてそうされているのだらうと思います。お二人の行動に倣って、他の皇族方も同じ動きをされている。これはなかなか他の国には見られません。日本の国の良さ・素晴らしさが表れていると感じます。

菅さんも被災地に行っていますが、「もう、帰るのですか」などと被災者から言われていました。大分、落差がありますね。菅さんは無意識に悪役になってしまったと思います。本人は決して迷惑をかけようと思っているわけではなくて、皆の為になるようにと思っての行動なのでしょうが、私利私欲もちょっと入っているから、その部分が汚点で出てきてしまうのでしょう。

後ほどお話致しますが、今日のテーマは「政治家と政治屋」です。

政治屋というのは、選挙に受かったらすぐに次の選挙のことを考えて準備する人です。小沢さんの子飼いの人たちは、当選したら次に落ちないように努力することが政治の要諦であると教わっている。まさに政治屋作りです。

政治家というのは、私利私欲を考えないで、国家百年の計を考えて行動する。例えば後藤新平の動きは、関東大震災後に帝都復興院を作って国家百年の復興プランニングをして実行していったのですから、政治家と言えます。政治屋と政治家は厳然と違います。

【三十四】 し やまい へい 子の疾 病なり。しろ いの 子路 禱らんことを請う。こ しいわ 子曰く、諸れ有りやと。こ あ 子路 対しろ こた えて曰く、之れ有り。しいわ こ あ るい いわ なんじ しょうか じんぎ いの 諫に曰く、爾を上下の神祇に禱ると。しいわ きゅう いの ひさ 子曰く、丘の禱ること久しと。

孔子が病気になって、もう危篤だと子路が思った。病気の平癒を鬼神に祈ろうと思って、孔子に許しを請うた。

孔子が「祈る理由があるのかね」と言った。

子路は「あります。君主から死者に対して送る追悼の辞にも、『天地の神様にお祈りする』

と書いてあります」と答えました。

孔子が「天地の神々に対して私は常に祈っているから、今さら自分の延命を祈る必要はない」と言いました。

何となく子路のやることは面白いですね。瀕死の床にある人に、そんなことを聞くこと自体もおかしいと思いますが、居ても立ってもいられなくて祈禱をしようと思ったのでしよう。子路は勇気があって武に長けている剛勇無双のイメージがありますが、ちょっととんちんかんな部分があって、ユーモラスを感じます。

自分の死期を悟ることは難しいと思います。木内信胤先生は「私は94歳で死ぬ」と公言しておられて、本当に94歳で亡くなりました。但し、ご子息の木内孝さんによると、身の周りの片づけや諸々の後始末をしてはいなかったし、先の予定表も書いてあったので、「本音は、死ぬつもりはなかったのではないか」と言っておられました。自分は何歳で死ぬと断言して本当にその通りに亡くなるというのはたいしたもの、これは特別な人です。

普通の人、私の経験ですと55歳を過ぎた頃から体力が落ちてきますから、少しずつ身の周りを整理するとよいと思います。どこかで思い切ってやらないと、なかなか進みません。私は今年は「ものを処分する年」と思っているんで、色々なものをせっせと処分しています。処分していくと、結構楽になってきます。ものがなくなれば、次に又、手に入れたくなるものが出てきます。お腹がいっぱいと食べられないのと同じです。

今日のテーマで考えると、最初は政治屋でスタートしても、どこかで天下国家を考えて、自分の今までの生きざまを捨てていかないとなりません。菅さんは市民運動家というやり方を捨てないと、次に行かれないのだと思います。小沢さんも剛腕だと言われてきましたが、どこかでそのスタイルを変えないと次に行かないと思います。

自分の生きざまをよくよく考えて、今までよいと思ったことでも、どこかでスタイルを変える。それは年齢でもいいでしょう。意識的に変えようと思わないと、変えられません。

【三十五】 しいわ子曰く、しゃ奢すなわなれば則ちふ不孫けんなり。すなわ儉こなれば則ちそ固ふなり。其ふの不孫そんならんよ与むしりこは寧ろ固なれ。

孔子が言うには、贅沢な人間はわがままで態度が大きい。儉約家は慎ましいけれども、かたくなで卑しさが出てくる。しかし不孫（わがまま）よりは、頑迷固陋であっても儉約する方がまだ世の中の役に立つであろう。

自分はどちらか考えてみるとよいでしょう。贅沢でわがままいっぱいな人生か、それとも儉約をして慎ましく生きているか。どちらも度が過ぎると周りに迷惑がかかりますから、ほどほどにしておかれるとよろしい。一生の間で贅沢をしたい時はあると思いますし、儉約しなければならない時期もあるはずです。そういう時に度が過ぎないように、知足という考え方で律していけばよいでしょう。

【三十六】 しいわ 子曰く、くんし 君子は たいら 坦かに とうとう 蕩蕩たり。しょうじん 小人は とこし 長えに せきせき 戚戚たり。

孔子が言うには、君子というものは、穏やかでゆったり伸び伸びしている。小人はいつでもせかせか動いている。

あまりこせこせした対応はしないで、ゆったり構えてゆったり動く方がよいということです。

【三十七】 し 子、おん 温にして はげ 厲しく、い 威ありて たけ 猛からず、きょう 恭にして やす 安し。

孔子の人物像をお弟子さんたちが批評しています。

孔先生は穏やかだけれども厳しい。威厳があるけれども荒々しくない。恭しいけれども窮屈ではない。こういう人物に私もなりたいものだ。

前の文章もこの文章も、気持ちの問題です。自分はこのタイプでいこうと決めて動いていると、不思議なことにだんだんそうなってきます。<こういう人になりたい>・<こうありたい>と思い続けていると、だんだんその容貌に近づいてくるものです。中斎塾フォーラムで冒頭に「嘘はつかなかったか?」「良い一日だったか?」「有難うと言ひ、有難うと言われたか?」という質問を致しますが、これをずっと繰り返していると、知らず知らずのうちに穏やかになって顔つきも良くなってきます。

政治家・政治屋

先ほど代表幹事が「恥を知らない人が増えた」という話をされました。ますます知足という考え方・人生哲学を考え、実行していくことが必要な時代に入ったと思います。

私は5、6年くらい前から「平成23年はとんでもないことが起きる。日本の経済・社会

はどんどん坂道を転がって悪くなる」と申し上げていました。今回の東日本大震災は序曲（前触れ）で、これから本格的な悪いことがどんどん起きると思っています。ですからよほど自己防衛の対策をしておかなければいけません。

今年の初めに、新聞を読む時に 3 つのポイントに注意して見るよう申しました。民主党の打つ無様な手・国債の動き・自然災害についてです。新聞を読んでいると、その三つが飛び込んできます。

民主党の打つ無様な手について・・・

先ほどの代表幹事も言っておられたように、今の総理大臣選びを見ても、何という無様なことをしているのでしょうか。なぜそうなったのか・・・。やはり政治家がいなくなったからです。政治屋の集団になってしまったから、今の民主党の体たらく、自民党の体たらく、他の小党乱立になったのです。例えば、与謝野さんです。与謝野さんは何度か消費税を上げたいと言っています。国家としての機能をきちんと果たすためには消費税を上げなければならぬという考え方は良いのですが、自分は一貫して「民主党は日本の国を潰す」と言い続け、それなりの本も出していました。民主党に取り込まれたのか自分から飛び込んだのか、中身までは分かりませんが、今の動き方は納得できません。

皆、自分は政治家だと思って行動しているのですが、国民から見れば政治屋だと思う人ばかりではないでしょうか。日本の国が良くなるためには、政治屋が一掃されて皆、政治家になればよいのですが、なかなかそうはいかないでしょう。この人は素晴らしい政治家だと思うような人物が出てきて、そういう人が実力を発揮できるような国になれば日本の国は変わってくる。

ではそれはいつ頃か・・・。今年はぐずぐずのまま続くでしょう。民主党も次の総理大臣が誰になるか今の時点では分かりませんが、とんでもない人が就任するような気がします。ただ、この新しい総理大臣は日本の国を悪くする役を担っていますから、日本の国が良くなるわけがない。自分の主義主張を言わない無色透明、自民党からも民主党内からも悪く思われていない人間を総理大臣にしようなどと、とんでもない発想です。敵のいない政治家など、そんな馬鹿な者がいるかと思います。主義主張を言えば、当然あちらこちらでぶつかります。ぶつかり合った中からエネルギーが生まれるのです。

それらしき人物がぼつらぼつら出てくるのは来年になると思います。ただし、力を発揮できるような状況にはならない。再来年になると、明確に芽が出ると思っています。芽が出て本格的になるには 4、5 年はかかるでしょう。それまでは日本の国は良くなりはい、どんどん悪くなる一方だということです。

国債について・・・

国債は又、格付けを下げる動きになっています。格付けが下がって国債が暴落すると、どうしても次はハイパーインフレに繋がる。家計が直撃されて食べ物がまともに食べられなくなる時代が来る。国債を気にすることで、こういったことが見えてきます。

自然災害について・・・

東日本大震災のような大地震・大津波がもう一回来ると思っています。今月、私は奥尻島に行こうと思っています。奥尻島は1993年(平成5年)の北海道南西沖地震による津波で、200人もの人が亡くなりました。その後、復興の為のお金が投入されて一気に復興したけれども、若い人がどんどん島を出てしまった。少し前は5万人だった観光客も、最近は3万人くらいに減ってしまっているそうです。政府が資金を目いっぱい投入して、それなりの箱物を作りインフラを整備したわけですが、それが今現在どうなっているのかを、自分の目で見てきたいと思っています。

その次は、大阪に行こうと思っています。浪速区の安政の大津波の碑を見に行くつもりです。この石碑には、大地震が起きた場合には、必ず津波が襲うものと心得るべきだ。津波が川を逆流して、大勢の人が亡くなったとも書いてあります。更に、「心ある人は時々碑文が読みやすいよう墨を入れ、伝えていってほしい」とも書かれています。

このように地震や津波、山津波を記録した石碑が、日本の国の中で色々な所に残っているとします。そういうものを意識して、それがどのように後世に活かされているかを見ておきたいと思っています。今回の地震でも、普代村の防潮堤や水門、野田村の源平坂の言い伝え、宮古市の石碑など、昔からの言い伝えを守った結果生き延びた人々や地域がたくさんありました。そういうところにマスコミがもっと焦点を当てて、人々が生き延びる算段ができるように誘導していくべきだと私は思いますが、残念ながら出来ていません。

やはり自然災害については、自分で出来る準備を少しでもしておかれるとよいと思います。前回も申しましたが、鳥の新型インフルエンザについては、「千葉県で2件発生して、終息した」と新聞の囲み記事に小さく書いてありました。ということは、九州ばかりではない、関東に上陸している。それが広がりだしたら、200万人から300万人は亡くなるわけです。自分が、或いは自分の子供・孫が死ぬかもしれません。若い人ほど死ぬ確率が高いのが、新型インフルエンザの特徴です。今のところ、「人から人」ではなくて、鳥を食べたり鳥に触ったことでの感染ですが、感染すれば死にます。鳥による新型インフルエンザに関する記事がちょっとでも出ていたら、意識して追求する必要があります。ネットで時々

見るのもよいでしょう。私は、今年の暮れには鳥による新型インフルエンザが来るだろうと思って、それなりの準備を少しずつしています。

他にも自然災害に対する準備として、自分が住んでいる地域の市町村役場に行くと危険地域のマップのようなものが作られているはずです。避難場所も紹介されていますから、そういったものを確認して、自分の住んでいる所が危ないかどうか、調べておく必要があると思います。

前回もお勧めした王子にある地震の体験施設に、実際に行って来た方がおられました。やはり自分で体験しておく、対策の練り方も違います。食べ物・飲み物を3か月分用意したという人もおられます。3か月分はむりでも、1ヶ月分くらいは備蓄をされるとよいでしょう。

最後に、氣力・体力を充実させることです。それには生活リズムを見直すことです。自分がいちばん能力を発揮できるリズムを知る。例えば、自分の能力をいちばん発揮できる睡眠時間はどれくらいか。仕事をする上で、いちばん能力が発揮できる時間帯はいつ頃か。自分に最も効果のある健康法は何か。自分にとっていちばんよい食事の仕方はどうか・・・こういったものを今、真剣に考える必要があると思います。そしてそういう生活リズムをつくることです。向こう5年間くらい、氣力・体力が充実していて素晴らしい体勢でないと立ち向かえません。生活習慣によって氣力・体力・知力は維持できると思うので、どうぞ自分で自衛策を進めて戴きたいと思います。

というのも、日本の政治屋さんたちは信用できないからです。政治屋さんたちが主導している日本の国は、これからどんどん悪くなる一方ですから、自分で自分の自衛をしておかないと生き延びること自体が難しいと思っています。ちなみにロシアでは、ソ連からロシアに変わった時に、餓死した人が2000万人いたと私は判断しています。日本人も何百万人単位で亡くなると思っていますので、自衛策を講じる必要があると思います。

以上で本日の講話終了致します。有難うございました。